

令和8年度 第1回 ACP 作業部会議事録

日時：令和8年5月20日（水）

午後1時30分～午後3時

場所：さくら庁舎 第35会議室

1. 出席者紹介

2. エンドオブライフ・ケア研修会について

(1) 日程：令和8年7月18日（土）午後1時30分～

場所：安城更生病院 第2講堂

基本的には昨年度と同様のプログラム。もしバナゲームとグループワークの時間を5分ずつ延長する。

【意見交換】

・昨年度はグループワークを「意思形成支援（本人の思いを引き出す）」と「意思決定支援（具体的な方針を決める）」の2場面に分けたが、実際は議論が混在していた。

→本事例は、本人の意思決定能力が低下している状況。わたしノートの情報（本人の人となりや価値観）を前提とし、それに基づいて「どう具体的な医療・ケアの方針を決定し、実現していくか」を話し合う場として位置づけるべきではないか。

正解を出すのではなく、多職種で話し合うプロセスそのものや、メンバー構成によって結論が異なることに気づく体験が重要である。

・昨年度、事例検討時に情報が少なく、参加者がイメージで補うのに時間がかかった。

→実際のカンファレンスのように、ある程度の医学的情報は事前に提示した方が、議論が深まるのではないか。一方で、情報が多すぎると単なる事例検討になってしまう懸念もある。情報がないことに気づくことも重要。

・1回目の肺炎で終末期の判断をするのは現実的ではない。入退院を3回繰り返しているなど、より具体的で切迫感のある設定の方が、参加者が議論に入りやすいのではないか。

【決定事項】

・グループワークは事例やわたしノートの情報をもとに、多職種で意思決定支援のための話し合いをするという導入で行う。

- ・医学的な基本情報は事例で提示し、質問が出た際にファシリテーターが答える隠し情報は無しとする。

- ・事例設定の肺炎の回数、嫌いな食べ物、もしものときにしてほしくないこと等について、いただいた意見を参考に修正をする。

(2) ファシリテーター打合せ

日程：令和8年7月8日（水）午後1時30分～

場所：安城市役所本庁3階 会議室9

3. ACPに関する取り組みについて意見交換

- ・訪問看護ネットワーク部会では、各事業所が今年度1回以上、ACPに関する会議を開催するという目標を設定。訪問看護師主導で会議を円滑に進められるように司会進行マニュアルを作成予定。

- ・安城更生病院ではACPテンプレートの入力が進んでいるが、外来と病棟での継続性が課題。院内学術集会で各部署のACPの取り組みを発表する場を設け、職員へ啓発。

- ・医師として意思決定の場には可能な限り同席するよう努めている。在宅療養支援診療所は、なるべく会議に出席したいと考えているが、過去の経緯もあり病院からの退院時カンファレンスに呼ばれなかったり、時間帯が不適切だったりする連携上の課題がある。

医師会の看護学校でACPマニュアルやわたしノートを用いて講義をしている。

- ・施設ではわたしノートを基に、利用者の「叶えたいこと」「やりたいこと」を記入できる1枚のシートを作成し、サービス担当者会議で話し合いを行いその実現を支援している。お寿司屋に行きたい、喫茶店でコーヒーが飲みたい、花祭りに行きたいといった個別の希望を実現した。わたしノートの改訂を機に、60代など比較的若い世代にもこれからの生き方を考えるツールとして活用予定。

- ・わたしノートの普及啓発活動として、地域のお祭りなどのイベントでの配布や、福祉委員を通じた配布を行っている。今年度は特に、一人暮らしの高齢者や80歳以上の高齢者世帯へ訪問する際に積極的に配布し、ACPを考えるきっかけづくりを進めていく。

- ・八千代病院では看護部のBSCにACPを組み込み、組織として推進している。院内の評価では入院時に患者と家族の意向を確認は94%、多職種カンファレンスの実施は80%と高い水準で実施している。退院後の生活を確認するため、病棟看護師による退院後訪問（昨年度28件）を実施しているが、訪問看護との役割分担をどう整理するかが課題。院内で「倫理コンサルテーションチーム」を立ち上げ、意思決定の過程で生じる倫理的な

ジレンマ等を相談できる体制を構築する予定。

- ・ケアマネジャー向けにACP研修会を実施したが、アンケートでは70%がわたしノートを活用したことがないと回答。ケアマネジャーへの一層の普及啓発が必要。

個別ケースでは、神経難病で意思疎通が困難な利用者に対し、本人の楽しみに焦点を当てた支援を計画。本人が競馬好きであることから、医師・訪問看護師と連携し、吸引等の医療的ケアを行いながら競馬場への外出を実現した。

- ・保健福祉部会では、まちかど講座にて市民向けにACPの啓発活動を継続的に実施している（昨年度19件）。今年度も引き続き実施していく。

- ・主任ケアマネジャーの会で、リハビリ専門職がわたしノートを認知症リハビリに活用している事例が共有された。好きなことや昔の思い出などを話しながらノートを作成するプロセスが、認知機能の刺激やコミュニケーションの活性化につながり、長谷川式認知症スケールが改善するなどの成果が見られた。

4. その他

【自分らしく生きるための「人生会議」ポータルサイト】

<https://www.mhlw.go.jp/acp-jinseikaigi/>

